※令和４年度以降入学生用

学校番号	2001

令和8年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「高校倫理　新訂版」（実教出版）						
副教材等	「アプローチ　倫理資料」（東京法令出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・思想や宗教の学習においては、自らの生き方、在り方への関心を高めると同時に、他者とともに生きるという視点が必要である。
・自己の人格形成と、よりよい社会のあり方を探ることを通してよき公民としての資質を養うことが大切である。
・先哲の思想を学ぶことは、同時に現代の問題にかかわるという視点が肝要である。思想や宗教の学習においては、自らの生き方、在り方への関心を高めると同時に、他者とともに生きるという視点が必要である。
・自己の人格形成と、よりよい社会のあり方を探ることを通してよき公民としての資質を養うことが大切である。
・先哲の思想を学ぶことは、同時に現代の問題にかかわるという視点が肝要である。

2　学習の到達目標

・青年期の意義や課題を理解して、主体的に自己の人格形成に努め、社会における自己の役割を自覚させる。
・先哲の考え方、生き方を手がかりにさまざまな価値を学ぶことを通して、よりよい自己、よりよい社会を主体的に探究することの意義を自覚させる。
・国際社会の中での日本人としての自覚を促し、日本の伝統文化の一端に触れさせる。
・現代社会が抱える諸課題に主体的にかかわり、倫理的かつ論理的な思考を駆使してその問題の解決策を探究する資質を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	現代の社会と人間にかかわる事項に対する知識を深め、多角的に考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解している。 資料から適切な情報収集し、異なった価値観を理解できる。	他社と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見出し、人間の存在や価値について多面的・多角的に考察し探究するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断してその過程や結果を様々な方法で適切に表現できる。	古今東西のさまざまなものの見方考え方を理解し、現代社会が抱える倫理的課題に主体的にかかわる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

※令和４年度以降入学生用

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1編 第1章 青年期の課題と自己	第１節　青年期の意義 1　人間とは何か 2　青年期とは何か 第2節　青年期の課題 1　自己形成の課題 2　自立への課題	a:自己形成に関する知識を身に着け、青年期の意義を理解できている。 b:他者とともに生きるという視点で、情報を積極的に活用できる。 c:自己形成の過程に関心と課題意識を高め，意欲的に追究している。	定期考査	定期考査	レポート ワークシート
	第1編 第2章 人間としての自覚	第1節　ギリシア哲学 1　自然哲学とソフィスト 2　ソクラテス 3　プラトン 4　アリストテレス 5　ヘレニズム時代の思想 第2節　キリスト教 1　古代ユダヤ教 2　イエス 3　キリスト教の誕生と展開 第3節　イスラーム 第4節　仏教 1　仏教以前のインド思想 2　ブッダの教え 3　大乗仏教の成立とその教え 第5節　中国思想 1「道」の自覚―孔子 2 儒家思想の展開 3　老荘思想 第6節　芸術と人生	a:ギリシア思想、キリスト教、イスラーム、仏教、中国思想などの基本的な考え方について、人間の存在や価値にかかわる基本的な課題であることに気付き、生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 b:人生における哲学、宗教などのもつ意義から、自己および人間の存在や価値にかかわる基本的な課題を見いだし、ギリシア思想、キリスト教、イスラーム、仏教、中国思想などの考え方を手掛かりとして多面的・多角的に考察し探究するとともに、人間としての在り方生き方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。また、それらを考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c:人生における哲学、宗教などのもつ意義に対する関心を高め、それらのもつ自己および人間の存在や価値にかかわる課題を意欲的に探究し、人間としての在り方生き方について考えようとしている。	定期考査	定期考査	レポート ワークシート

※令和４年度以降入学生用

２学期	第１編　第３章　日本人としての自覚	第1節　古代日本人の思想 1 日本の風土と日本人の気質 2 神とのかかわりと道徳観 第2節　日本の仏教思想 1 仏教の受容 2 仏教の日本的展開 3 仏教と日本文化 第3節　近世日本の思想 1 儒教の受容と朱子学 2 日本陽明学 3 日本字的儒学の形成 4 国学の形成 5 民衆の思想 6 幕末の思想 第4節　西洋思想の受容と展開 1 啓蒙思想と自由民権運動 2 キリスト教の受容 3 国家主義の台頭と 社会主義思想 4 近代的自我の確立 5 近代日本哲学の成立と 超国家主義 6 伝統の自覚と新たな課題	a：日本の風土や伝統、仏教や儒教、西洋思想などの外来思想の受容と吸収に関して、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質を、生きる主体としての自己確立の課題と結び付けて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 b：古典や生活慣習などをもとに、日本の風土や伝統について考察し、仏教や儒教、西洋思想などの外来思想の受容と吸収について学習しながら、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について多面的・多角的に考察し、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について探究するとともに、広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。また、それらを追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c：日本の風土や伝統、外来思想の受容に対する関心を高め、日本人にみられる人間観、自然観、宗教観などの特質について意欲的に探究し、国際社会に生きる主体性のある日本人としての在り方生き方について考えようとしている。	定期考査	定期考査	レポート ワークシート

※令和４年度以降入学生用

２学期	第２編　第１章　現代に生きる人間の倫理	第1節　人間の象徴 1　ルネサンス 2　宗教改革 3　モラリスト 第2節　科学・技術と人間 1　近代の自然観 2　新しい学問の方法 第3節　民主社会と自由の実現 1　民主社会の形成 2　人格の尊厳―カント 3　人倫―ヘーゲル 第4節　社会と個人 1　個人と社会との調和 2　社会の進歩 3　社会の変革 4　主体性の自覚 第5節　人間への新たな問い 1　理性の深層への反省 2　言葉への反省 3　理性の働きへの反省 4　他者へのまなざし 第6節　社会参加と幸福 1　生命への畏敬と 非暴力の思想 2　正義と福祉 3　社会の中の人間	a：ルネサンス以後、現代に至る西洋思想の形成と展開について、合理的精神、民主社会の倫理、科学技術文明の在り方、人間の尊厳の自覚などについて、自己の生き方とつなげて理解し、社会参加や自己実現ともかかわりながら、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 b：現代に生きる人間が直面する諸課題について、ルネサンス以後、現代に至る西洋思想の形成と展開を手掛かりとして多面的・多角的に考察し、倫理的な見方や考え方を身に付け、他者と共に生きる自己の生き方にどうかかわるかを広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。また、それらを追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c：現代に生きる人間が直面する諸課題に対する関心を高め、倫理的視点から意欲的に追究し、他者と共に生きる自己の生き方について考えようとしている。	定期考査	定期考査	レポート ワークシート

※令和４年度以降入学生用

３学期	第２編　第２章	第1節　生命の倫理 第2節　環境の倫理 第3節　家族の課題 第4節　地域社会の課題 第5節　高度情報化社会の課題 第6節　文化と宗教の課題 第7節　国際平和と人類の福祉の課題	a:今日の生命倫理または環境倫理の問題について、家族や地域社会の在り方または情報社会の在り方について、異文化の尊重または国際平和について、それぞれ現代に生きる人間としての在り方生き方にかかわる諸課題を、自己の課題とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。 b:自然と人間とのかかわり(生命倫理、環境倫理)、社会生活と自己とのかかわり(家族・社会、情報化)、国際社会と自己とのかかわり(異文化理解、国際平和)などの視点から、現代の倫理的諸課題を、自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察し、現代に生きる人間としての自己の在り方生き方について広い視野に立って主体的かつ公正に判断している。また、課題を追究し考察した過程や結果を、レポートにまとめ、発表や討論などを通して適切に表現している。 c:現代の諸事象における倫理的課題から、関心のある問題を積極的に選択し、自己の課題とつなげて意欲的に追究している。現代に生きる人間としての在り方生き方について考え、倫理的諸課題に進んで取り組もうとしている。	定期考査	定期考査	レポート ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度